常磐毎日新聞

十一月二十一日夕刊

日刊　定價一ヶ月金[illegible]　日曜祝祭日の翌日休刊　發行兼編輯人 坂本忠治　發行所 常磐毎日新聞社　電話六三〇番　印刷所 常磐毎日印刷株式會社

天氣豫報
今晩は北西の風晴一時曇
明日も北西の風晴一時曇

購買券に消印せず
忍かに是れを轉賣
ガソリン闇取引事件擴大
首犯檢擧さる

既報、國策の裏を行くガソリンの闇取引で植田町上町カーバイト、インジン外交員下山田義一（四三）外十餘名を檢擧した平署は同配給券の出所に關し本田司法主任及び菊地部長刑事が鋭意取調べてゐたが二十日夜に至り植田町貨物自動車業兼ガソリン販賣業「東京屋」店主佐藤庄吉（四〇）が主犯なること判明檢擧した

同人は本縣自動車協會植田支部幹事の要職にありガソリンを購買券引換に販賣した場合はその券に消印して警察署に納入すべきに拘らずガソリンの配給不足を奇貨に一儲けせんと企み引換券を警察署に戻さず一ガロン券一枚一圓乃至一圓二十錢で下山田等の手を介し平地方を始め茨城、東京方面に約四五百ガロンを不正販賣した外一本（五〇ガロン入）三十二圓五十錢のドラム罐を二、三十圓のプレアミ付で販賣したものである

市內や縣下の……
各方面に飛火し
脛傷の業者戰々恂々

（別項）平署で手を入れたガソリン闇取引事件は今二十一日に至り意外な方面に飛火し類犯者として平市三町目福島モーター商會平出張所長二階堂重雄（三二）內郷村自動車業磯貝信夫（四三）兩名のほか二三名檢擧された

二階堂氏は縣北の一流商店から購買券なくして一本三十二圓五十錢のドラム罐二、三十本を密買これを百二、三十圓宛で賣却ボロイ儲けをしたもので、磯貝氏は二階堂氏からドラム罐を買受け更に儲けて他に販賣した形跡があり

今後取調べの進展につれ關係者が續々と檢擧される模樣で市內は勿論縣下の自動車業者並にガソリン販賣業者間に一大センセイションを惹起し業者は何れも戰々恂々としてゐる

防空訓練
けふ平署講評

平署では今二十一日午後一時から同署會議室で署防團幹部、市町村長、警察署員に對し過般の防空訓練成績の講評を行つた

東部青年
體力檢定

平市東部青年團の體力章檢定は二十三日から四日間毎日正午から第三小學校々庭で左記日割により行はれる、但し日曜の二十六日は午前九時開始の筈

△二十三日—三丁目、四丁目△二十四日—大工町、南町、大町、新川町、△二十五日—五丁目、十六區、堤ノ內、月見町△二十六日—六七丁目、鎌田町、白銀町、十七區、片倉

大陸を旅して（三）
篠山廉

離航第二日

十一月二十八日夜は明けたれども風波収らず、風は叫び海は鳴る、午前七時ボーイの報告に曰く、本船は五時間延着の見込なりと、十時頃より風勢稍々衰ふ、再び報告あり八時延着の豫定なりと、十一時頃更に十時間の延着と定めて布令が廻る再三の豫定の變更せらるゝは、船体極度に風波に翻弄せられ、其位置が暫時不明に陥りたるがためなりと聞かされて、難航の程度も想像がついた。兎に角風収まると共に船客も何處やら去り誰れも彼れも寢床から蘇生の思で這ひ出で昨夜の苦惱を物語る、今でこそ強さうに裝る友も當時の相貌見られたものにあらざりし事を聞かされて苦笑するのみ、乘船以來ハンストを續けた一同も、中食よりは談笑の間に食卓を圍む時に其席に在りし機關長から昨夜來の暴風は此航路には全く稀有のもので冬季中と雖も嘗て見る能はざるものなりしと話されて二度喫驚したが、海上生活者さへ容易に經驗出來ぬ事を味へた事も、こよなき幸福であつたなど強がりを言ふ、午後四時行手左方に模糊の中に大陸の山影を見る、多分北鮮の山々なるべし、五時遙に煙突の林立せり地形を見出す、船はこれに船首を向けて走る、目指は淸津ならんか

大陸の初印象

午後六時三十分待望の淸津に到着、この地東面の傾斜地附近山丘を切り崩して築港工事の中途にあり、水深く吾等の船は第一突堤に容易に横はる、陸は、最近の新築と覺しき高壯の家屋雜列、行交ふ人殆んど內地人なるに先づ驚く事變以來、若人の召されて興亞の第一線に立つもの多かりし事は、誰れも知る處なるも平和の戰士として大陸に活躍するこの人達、何時の間に何處から來るものか、大陸の門戸からこれでは……唯だ〳〵感歎するのみ夕暗の中を、バスに揺られて舗裝半ばの凹凸路を過ぎて高壯なる停車場に入る、場內白衣の鮮人、メーボーの鮮人の群れ、一種異樣の体臭を漂ふ中に、大陸初印の電報やハガキを認みつゝ車を待つこと約一時間

イワシの大群が
愈よ押寄せ來る
日歸りの漁場に
濱の市場俄に活況

冬から春にかけての濱の寵兒たるイワシも今年は潮流異變から一向に大漁の吉報なく石城各濱はいささか寂寥を感じてゐたがこの寵兒が突如大群をなして双葉請戸沖合に押し寄せたので手具脛引いて待つてゐた各濱漁船は十九日朝來一齊に出動を開始した、漁場が近いだけ何れも日歸りで水揚げをなしつゝあり濱の市場は俄に活況を呈したが一方〆粕、頬刺などの加工場も大漁に湧き立つて操業を開始殷賑を極めてゐる

國婦へ寄附

平市大町諸橋チヨウさんは今二十一日國防婦人會平支部へ三十圓、同第一分會へ三十圓合計金六十圓を寄附した

自爆勇士
部下に一人

横須賀海兵團では三十日午後二時から成都爆擊に壯烈な自爆を遂げた英靈の海軍合同葬儀を執行するが地方關係者は渡邊村大字泉田字藤神前二〇（現在横須賀市汐入町一二五）海軍航空特務中尉岡部三郎氏唯一人である

海軍志願
奬勵映畫

仙臺地方海軍人事部主催の海軍志願兵奬勵映畫會は十二月十三日湯本、十四日植田で開催される

燈火を與へよ！
石油の配給中止に
農村の悲痛な叫び

石城郡下に於て電燈の恩惠を受けず昔ながらのランプ點燈戸數は五千三百二十四戸程あるが點燈用石油の配給が中止されたゝめこれら農家は暗黑の夜を送らねばならず「燈火を與へてくれ」との悲痛な叫び聲をあげて居る

が從來これら農家への配給は特約店、商業組合が中央から自由に買入れたものを販賣してゐたのが先月末からこれが補充に困難となつたゝめ今後冬季に向ひかつ農家の夜仕事が多くなる際とてその不自由は深刻化して來た

署內對
駐在の
警察官試合

平署では武德殿祝賀三日目の行事として今二十一日の出署日を機に署內對駐在の武道試合を催した

木炭飢饉に
植田營林署が
七百俵宛配給

寒さを迎へ植田地方も木炭飢饉に惱んでゐるがこの程古川植田町長並に植田同警察署長が植田營林署を訪れ陳情した結果毎月七百俵宛配給されることになつた、これは植田町商業組合に配給されそれから各小賣業者の手を經て一般家庭に配給されるものでこれで同地方の木炭飢饉も解消されるものとみられる

小名濱支局通信

東部聯合教育
總會に臨みて（一）
支局長 小野務平

福島縣教育會石城部會は平市誕生日共に其組織が變つた隨つて東部と稱する石城双葉相馬の三郡に平市が加はり一市三郡が本縣東部聯合教育總集會と云ふ組織の許に毎年一回之を開催する當番部會があり順次輪番に開催する方法で本年は石城郡に開催する其當番が石城郡部會長が小名濱小學校長の西山君である爲めに小名濱校の講堂で開催すると云ふのが會そのものの開催の順席であつた

本紙は早くから十九日を以て開催する事を報導して置いたが愈々當日となると部會長から案內があつた、當日は上京の日程で一寸時間もないが部會長が小名濱校長であり地許開催でもあるからこれは時間をやり繰つても出席するのが義務であり任務の一端であると考へ九時半頃顏を出す事にした

一市三郡の教育家が四五百名參集するのだから小學校の方でも相當の準備がいる、先づ玄關入口に進むと吉田訓導が玄關番で下足の整理をやつて居る會員口と役員や來賓の入口を別に案內した案內により進むと舟生先生（女）が案內して呉れ來賓控室へ吸ひ込まれた僕に二名の先客一名平第二千葉校長であつた、茲で雜談に入る千葉校長は躍進小名濱の向上發展の姿を正に感に入つたらしく小名濱町を尋ねる毎に何物が目新らしき姿が現はれて居る實に敬服の外はない、今度は道路が裝されて居ると其進展に喫驚して居る樣子であつた

然し小名濱を根據とする我々から見ると其變り方が遲々として誠に齒痒ゆいもう少し何とか方法を換へて見なければならぬと語つて入る內に舟生先生の開會の案內で連れ立ち會場に進んだ

一市三郡の訓導役員は正面向つて左側來賓は右側、其中央には三列の普通會員席が据へられ何れも着席せられてあつた、來賓席上座には鎌倉縣視學外一名福尾町議と福島教育會新聞社長作山美八君とであり記者が加つて僅五、來賓の僅少なるに張合拔けの形である

席定つて部會の副會長四倉校長篠原君が簡單に開會を宣し、小名濱校の舟生首席の指揮で宮城遙拜戰歿將士の默禱、續いて國歌齊唱で一段落をつげ愈會長の挨拶となつた（未完）

自家を顧みず
筒先を握つて健闘
▽……警防團員の模範

川部村小川雜貨商小田部誠行さん（二五）は去る十三日夜同村の映畫館小川館から發火十二戸を燒いた火災の際警防團防火班である責任から自宅の隣まで延燒してゐるにも拘らずポンプの筒先を握り消火に活躍したので團員の模範だと賞讃されてゐるがこの程村當局及び警防團長は表彰方を上申した

報國貯金で
國債を買ふ

小名濱信用組合では二十日からの産組貯蓄實行週間に當り三ケ年据置報國貯金を開始することになつたがこの貯金では國債を買ふ計畫であると

高點試合の結果
昨日の武德殿武道大會

平署武德殿竣工祝賀の縣下警察官對抗武道大會は昨報の如くであるが劍道高點者試合の結果は入賞者左の如くであると

△一等福島長谷川定雄△二等石川五十嵐貞一△三等二本松久保一夫

羊毛を蒐集

植田町國防婦人會並に同女子靑年團では十七日來「羊毛資源を愛護しませう」と反毛運動を起し各家庭から羊毛屑（メリンス、毛糸、セル屑等）を蒐集してゐたが今二十一日午後一時植田小學校に持寄り縣から出張した係官の檢査を受けた

消火慰問費

內郷村一ノ坪家庭防空群は去月九日磐炭綴機械置場から發火した際一部群員が出動消火につとめたゝめ磐炭から茶菓代として金五圓を贈られたが早速皇軍慰問費に献金した

堀江工業の
鈴木曹長
瑞昌で戰死

平市播槌小路の堀江工業會社に勤務中應召の双葉郡久之濱町字後三松出身山田（茂）部隊鈴木清一曹長は去る十日江西省瑞昌附近の戰鬪で名譽の戰死を遂げられた旨この程原隊から發表されたが實家には父留吉氏（六八）母タセさん（五二）妻勝子さん（二五）のほか弟妹三人があり農業を營んでゐる

庶民金庫總代

平庶民金庫では明二十二日市內城山湯殿山社務所に於て總代赤塚勇吉氏逝去に伴ふ補欠選擧を執行する

大野村長推薦

大野村ではこの程村長の吉田保之助氏が辭職されたので二十五日後任者決定の村會を開くが目下話題に上つてゐる人々は村議の中野幸平、同木田織江、同西山惠一の三氏で結局このうちの一人が就任するものとみられる

巡查試驗

本縣巡査採用試驗は二十日平署で行はれたが受驗者は七名

平市人事

回出産

△揚土一五鈴木清次氏三女博子さん

△四町目一八目下茨城縣日立市大字助川一八四五綠川恒治氏長女富惠さん

回死亡

△禰宜町一八常吉氏母齋藤わきさん（七三）

ラヂオ

今晩の部

▽後六、〇〇 子供の時間お話「滿洲を見學して」宮城縣刈田郡宮小學校六年丹野富太
▽後六、二五 講演「科學界のトピック」
▽後七、三〇 國民歌謠
▽後七、五五 吹奏樂
▽後八、一五 歌謠曲
▽後八、三〇 靑年の時間 特輯番組「新支那の産業開發」賀屋興宣
▽後九、〇〇 詩吟物語「孫逸仙と犬養木堂」宮崎龍介作物語、澤村田之助、吉村岳城

明日の部

▽前八、五五 小學生の時間
▽前九、一〇 支那事變戰病歿將士合同慰靈祭實況—仙臺市立町小學校講堂より中繼—
▽前一〇、〇〇 家庭メモ
▽前一〇、二〇 家庭講座「長期戰下の衣服類」川安朗
▽前一一、〇〇 小學生の時間「尋三」物語劇「白い鳥の皇子」吉田壽郎外、作編曲並指揮細谷一郎
▽後〇、〇五 落語「稽古屋」桂小南
▽後二、〇〇 小學生の時間
▽後三、〇〇 婦人の時間「この頃のニュースから」高瀨五郎
▽後五、三〇 講演「皇恩と東北郷倉」岡司安正
▽後六、〇〇 子供の時間
▽後六、二五 講演「學問と人生」文學博士天野貞祐
▽後七、三〇 國民歌謠「空の勇士」
▽後七、四〇 ラヂオ小說「興亞に生きる」（突擊の記錄）阪[illegible]助、澤村宗之助ほか
▽後八、一〇 歌謠譜「興亞の曙」野口米次郎作詞、宮城道雄作曲、野口米次郎、宮城道雄社中
▽後八、三〇 特輯講演「東亞新秩序と國際關係」—日本青年館青年記念日大會々場より中繼—
▽後九、〇〇 浪花節連夜其の一「殿中刃傷」吉田奈良丸

カメラと用品
現像引受
お用命は
西村屋藥局寫眞部
平 2 ・ 電 3

（夜間診療）
胃腸性病
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病醫院
平市南町（電話一〇七番）

家傳 安流丸
梅毒と たい毒 吹出物に はれものは
安流丸 に限る
阿部藥舖
平市田町

內科外科 一般
金成醫院
金成忠義
平市鎌田町 電話三五八番

戰國間諜傳
大平沢一龍作　山科一郎画

第百二十三回

女[illegible]ひ（一）

[illegible]は、それから[illegible]にせて、[illegible]の離れに[illegible]市內[illegible]などに出かける折には、[illegible]を遊ばせ、[illegible]つて[illegible]をするほど[illegible]から[illegible]かい[illegible]をはかつた。

ちやうど[illegible]すぎ、[illegible]りつく[illegible]な[illegible]が、夕陽の赤い[illegible]に燃えてゐる頃、[illegible]は大汗になつて外から歸つて來た。そして[illegible]に[illegible]かへる[illegible]に[illegible]いで[illegible]の[illegible]へ入つていつた。

[illegible]にむかつて[illegible]て[illegible]に[illegible]をしてゐる[illegible]は汗をふき

「ふう〳〵」云ひ乍ら入つて來た[illegible]主の[illegible]を見るとくるりと[illegible]つて

「お[illegible]主人[illegible]りなされてか」

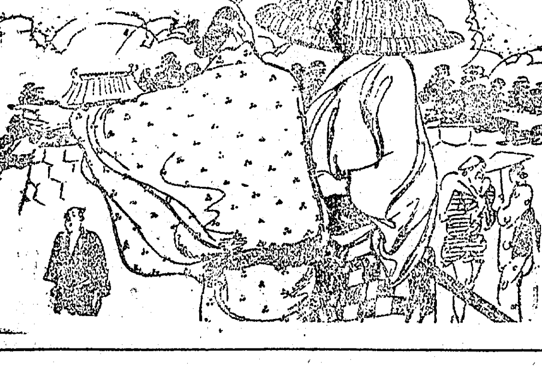
「[illegible]しいこの[illegible]に[illegible]てさへ汗は[illegible]、只今は[illegible]につかれて[illegible]ゐる」とのことで[illegible]ります」

「エツ。あの[illegible]ろうてか——[illegible]もないことぢや[illegible]そうに——」

[illegible]は[illegible]がいかにも[illegible]しかつたことを[illegible]ひ出した。今で[illegible]の[illegible]と云ふのであらう。それが主家は[illegible]・その[illegible]を分け[illegible]は大[illegible]も[illegible]も共に[illegible]したと云ふことをきいては、我一人生[illegible]つて[illegible]を江戸城の人々の中に[illegible]す[illegible]の心は、[illegible]しい[illegible]ひで一ぱいであらう。[illegible]になるのも無理からぬことと[illegible]ひやると、あさりの[illegible]れ[illegible]目のうち[illegible]んだ。

「それから、米村[illegible]門さまは只今[illegible]の[illegible]に[illegible]となつて[illegible]けの[illegible]とやあでござります」

「[illegible]さまと云ふのはあの[illegible]



むやうな[illegible]、外は[illegible]しいと[illegible]やござりませうな[illegible]にっこりと目で[illegible]へ[illegible]も、お[illegible]たうちわを出してやつた。

「いへ、なに、日の落ちた時分には必ず風が[illegible]れるもので、[illegible]に[illegible]うござりますが、今[illegible]も月の[illegible]あがれば[illegible]く[illegible]しうなりませう。[illegible]に[illegible]さまへ」

ゴいとすり寄つて[illegible]を[illegible]した。

「かねて[illegible]市內の[illegible]、今日[illegible]丸のお[illegible]へまゐりまして、[illegible]人[illegible]水さまの下[illegible]中川[illegible]門と云ふものが[illegible]と[illegible]な[illegible]ちやによつて、それとなく[illegible]合せましたところ、平[illegible]さまはやはり[illegible]り[illegible]、大[illegible]よりついて[illegible]られた[illegible]の[illegible]もお[illegible]として[illegible]に[illegible]へ、また二人の女中もそのまゝ[illegible]へになつて[illegible]るとのことに[illegible]ります」

「おしそれではおちよぼと、[illegible]との二人もお[illegible]にゐやるのかし[illegible]の[illegible]門などは[illegible]——やつぱお[illegible]なんだかへ」

「いや[illegible]さんもやはり[illegible]へられましたが、[illegible]へ[illegible]されてか[illegible]のことかへ」

「いや[illegible]さまとは[illegible]いますゐもつとも[illegible]一同ではござりますが、本多にもいろいろ[illegible]の[illegible]れがありまして、[illegible]門さまのお[illegible]けになつてゐる[illegible]の[illegible]、[illegible]上日の出の[illegible]、[illegible]とおつしやる[illegible]で[illegible]ます、今は[illegible]のうちに[illegible]は[illegible]」

「おゝそれは[illegible]の[illegible]の[illegible]」

「へエ、[illegible]の[illegible]中は本多の[illegible]、[illegible]の[illegible]大[illegible]の[illegible]女におかりなされて、[illegible]の[illegible]から[illegible]へ[illegible]入れになつたので[illegible]ますゆゑ、[illegible]の[illegible]とは[illegible]、[illegible]さまには[illegible]ました。[illegible]の本多[illegible]にはお[illegible]さまにあたりますゆゑ、[illegible]の[illegible]とふ[illegible]よりその[illegible]、[illegible]の[illegible]へも出入りが[illegible]ひ、[illegible]の[illegible]などを[illegible]つて[illegible]ります」

そこまで云ふと汗をふいてうちわでパタ〳〵風を入れた。

家庭と娯樂

小ばなし

「この頃は女中が拂底したので私共でもとう〳〵女中をやめ一さい私が料理しますの」
「まあ經濟的ですわね」
「えゝとても經濟よ、第一夫の食慾が、それ以來ぐつと減りましたもの」

民族優生制度案をみて

山本杉

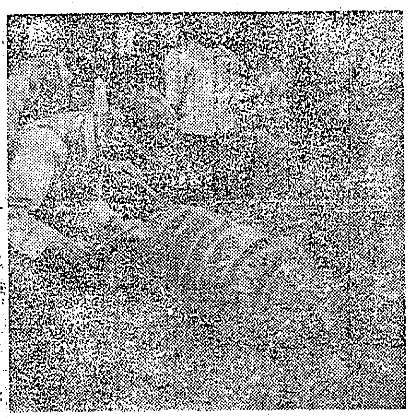
いよいよ國民體力管理制度と、民族優生制度案が政府の手で議會にのぼることになつた。國民の體位向上の根本政策が、國民による先天的遺傳質の向上と、優境學による環境の改善・適正質の上き環境の助成にあることは今日論しもうたがはない。歐米の文明國はすでに優生學による斷種法を制定し、劣惡者の繁殖を防遏し、優生學を基礎とした社會政策の施策を行ひつゝあるのである。わが國においてもやうやくこの制度が制定されるのは當然で、むしろおそかりしを憾む。

民族優生制度案の内容は劣惡者の繁殖を防遏するために、人道上非難するところのない手術法によつて、必要とみとめたものに斷種法を行ふものである。しかしてこの條文中、特に注目すべきは、從來惡者の生命、健康に重大な危險をみとめた醫師が、醫業行爲として行つた避妊及び妊娠中絶の手術及び對照的の者が、第廿一條によれば手術施行前、或は急救の場合は事後に行政官廳に屆出を要し、行政官廳で必要とみとめる時は指定した醫師に立會診斷をもなさしめるといふのである。これは明かに産兒制限の目的のもとに、これらの手術の行はれることを防止し、妊娠した以上重大なる危險のないかぎり必ず生まねばならぬといふことを條文化したものである。

これによつて一應は避妊手術や妊娠中絶の濫用は防止されるであらうが、根本的にこの條文の效果を舉げるためには、法律の規定以外により一層醫師の良心が必要であることを思ふ。なほこの法律が嚴重に施行されゝば、手術によらない避妊法が一層多く行はれ、多數の質があげられなくなることを努へなければならない。當局はこれに對して當然何らかの方策をもたれるはずである。

白いお米を食べると 白米病に罹る

○……長期戰にそなへて、いよいよ白米にもおさらばを告げ、牛搗か七分搗を國民の常食にすることに近く總動員法第八條が發動されることになりました。滋養に富む白米の忘れがたい淡白の味が米飯から消えることに



なりました

○……白米さへ食べてゐれば滋養は十分に摂れるものと考へられてゐた近代人の白米に對するあやまつた榮養知識はこゝに一蹴して、國策にそつた榮養知識をもつて家庭の主婦はまづその第一歩をふみ出すべき秋です。

次に、榮養研究所長醫學博士樋口太郎博士の話を聽きませう。

我が國において、國民一般が風喫し好、外國からの輸入に支配されて、米を精白して白米を日常の主食とするやうになつたのは徳川時代の中期以降約二百年來のことです、そのころ、内地の各地はもちろん、江戸にも殆ど見出されなかつた

◎白米病の病氣 にかゝる者が多く現れて來るやうになりました。これを「江戸わづらひ」と云ひ、今日で云ふ白米病のことです この白米病は榮養研究所の實驗の結果

雞や小鳥の白米のみで飼養すると脚氣が起くなつたり、頸部等にケイレンをおこしたりして脚が立たなくなつて歩けなくなりました。

白米病の典型的なものは脚氣ですが、脚氣に至らないまでも、倦怠の感じを感じるとか、食慾を失ふとか、消化液の分泌が減退するとか、仕事にあきるとか、下痢もしくは便秘等の

◎胃腸障害が 現れるとか貧血を來して血色がわるくなるとか、姙婦では乳汁分泌の停止さへ見る潜在性脚氣の症状に止まるものがたくさんあります。

また白米を主食としてゐる母體が、たとひ一見健康のやうに見えて、何等の症状を示さないでその乳兒が乳兒脚氣にかゝる場合も少くありません。

これらはみなビタミンBの缺乏によるのです。即ち、脚氣豫防となり、腸内の糖分を完全に身體に使はれるやうにするビタミンBが米を精白にする場合にすりへらされて無くなるのです。ところが、七分搗の場合は、ビタミンBは云ふまでもなく

◎エネルギー の源泉となる脂肪、蛋白質、含水炭素（澱粉）や骨格の成分となる無機質（鐵、石灰、燐）等のビタミンBやビタミンE等もすりへらされないですむことになります。

寝不足にも忽ち効く 毎朝梅干茶を召せ

昔から朝茶がからだによいといはれます、殊に心身を爽快にし、仕事のコンデンションをよくする上に朝茶一杯は中々合理的ですが、更にその上に梅干を入れた梅茶を勵行するやうおすゝめしたい

梅干一個に一杯の熱茶は口中を殺菌し口臭を去りその日一日爽快な氣分ともなるからです

お茶には御承知のようにヴイタミンCが豐富にあるが梅干の酸で破壞されるようなことはない

勞働の人に梅干し朝茶を勵行してゐる人が多いがこれなども效力を發揮してゐる所以かと思はれる

なほお酒飲みに茶がよいといふのは茶中の鞣酸、茶カテキン、ヴイタミンC等が作用して酒精を淨化し、心身に緊張と力を與へるので醉ひ醒めの水といつて醉ひ客はひどく玉露としてゐるが、むしろ番茶のほうが藥物として效力がある、眠氣が消えずどうもはつきりしない朝、やゝ頭の重い時など梅干朝茶は酸の作用と血液の循環作用に早速はたらきかけて意識を明瞭にし筋肉のはたらきをよくするのであります

植木鉢と花瓶の手入れ

偲ばれる主婦の心掛

清潔な部屋にいつも花びんの花が活々としてゐて新らしいもの〳〵やうに勢のよいといふのは家事上手の一つになります。切花でも鉢植でも親切な心づかいと注意深さをもつて僅な手間で丈夫にもたせることができるものです、花びんににごつた水がはいつてゐるのは花のためによくありませんから時々バケツで水をとりかへることです、それから部屋をきうくつにするとき必ず花に氣をつけませう、枯葉や、しぼんで首をたれてゐる花はちぎりとつて下さい、これは鉢植の植木も同じことです、枯れてしまつたきたない花を何日も殘してゐないやうに花に間接に朝日に當ることもよいことです、窓ぎはなどに植木鉢をおくと、いつのまにか窓の日光のあたる方に葉でも莖でもかたむいてゐますから平均に日があたるやうに時々平に鉢をまはしてやりますと恰好もよくなります。これからさむくなりますから殊に注意して日のあたるところにおきませう。しかし西日はよくありません。鉢類は[illegible]ないしづかに雨がふつてゐるやうな日に外へだして雨で洗はれるやうにしてやることもよいことです、大きい植木鉢には土のしめり工合と葉の様ひをみて適宜に水をやります、水揚げをよくするにはダリヤなどは水揚げがむづかしいといはれてゐるものですが鉢でもむと一週間はもちます、菊などは一ヶ月も持ちます。毎日新鮮な花にするには夜花びんの花をさしたまゝにしたいできり口を一すきつて新らしくバケツやおゝきな容器に水を一杯にして花の下まで葉とくき深くゆつくり水にひたしてやると新鮮は切立てのやうな勢で美しい花を生けることができます、徳用でなくとも一日おきでも結構です。まだ手間のかゝらぬ方法としては葉にこまかい霧を吹いておいてもよいほどちがひます花は客間のテーブル、床の間、食卓の上、下駄箱の上、臺所の隅の上、洗面所のすみの棚などにやさしく花をおくと大へん氣が利いて見え家中のものゝ眼をなごさめてたのしませることができます

俳聖名句集

◇…こぼるるにつけてわりなし萩の露　鬼貫
◇…知己の鳴子ならして通りけり　蕪村
◇…彩しと我影さへや鶉の形　鬼貫
◇…雀にさく〳〵さくやくず菊　一茶
◇…乳呑み兒の風除に立つ案山子かな　一茶

玉子を節約しませう

大人は食べず病人や子供に

中央物價委員會では、國民生活の必需品中特に消費の節約をしなければならぬ物資をあげてこの具體的な節約法を研究することになりましたが、さしあたり現在いちじるしく不足を告げてゐる雞卵の節約法を次のやうに定めました

まづ、雞卵はなぜ節約しなければならないか、といふと、季節的にも秋から冬にかけては産卵の減少するときですが、近ごろはまた需要はいちじるしく增加してゐます

このまゝで放置しておくと大切な傷病兵、病人、老人、兒童など國民體位の向上のうへから絶對必要な方面にまで支障をきたすことになります。そこでどうしても料理店や菓子店をはじめ一般家庭でも雞卵の消費を少くとも現在の三割ぐらひは節約してゆくようにしようといふのです

一般家庭で實行したいのは、雞卵をたくさん使ふ料理たとへば玉子とぢ、オムレツなどのやうなものは、なるべく作らないようにする、特に健康な大人は雞卵は食べなくても他のもので榮養は補はれるのですから、

雞卵は病人、老人、子供だけにあたへるやうにしませう、從來、家庭の食卓で最も優遇な主人だけが雞卵をたべて、主婦や子供は粗食に甘んじるといつた風習はこのましくないことになります、家庭料理の獻立がかわつてくれば、自然に女學校のお割烹なども、變つてくることになるでせう

これからは、料理店、旅館などへも雞卵の配給が制限されますから玉子どんぶりやそのほかの料理は出ないことになりませう、また菓子店にも配給は制限されますからカステラをはじめ、プリン、アイスクリーム、ホットケーキなど子供のよろこぶお菓子類はだんだん少くなつて行くことゝ思はれます

雞卵の代用としては、生大豆粉の利用が奨められてゐますが、生大豆粉とは、生の大豆を粉にしたもので、百匁十五錢位で賣つてゐます、これは相當の脂肪と蛋白質に富み、餘分な雞卵にまぜて使ふと、それだけ雞卵の節約になるわけです、カステラやビスケットもできるしコロッケやカツレツの衣下地に用ひてもよい、ただし玉子焼などには不經濟です

時局小說 驀進

（禁上演映畫化）

士別一樹　北野傳画

第十四回

青春（四）

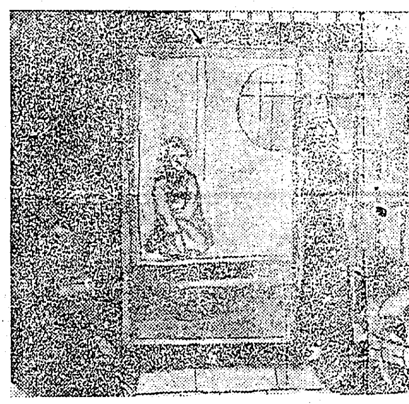
[illegible]日本の秋の花と見るならば、これは、西洋の夏の花とも見るべき豪華な美しさである。一方はあくまでもつゝましやかに、一方はあくまでも誇らしやかに……

自動車をかへしてしまふと、かの女は、玄關と女中に聞えるやうに、

「兄さま！」

と、呼んだ。兄と傳ふことを傍の人に、ランデブウとでも見られては、いやだと思つたからであつた

しかし、由紀子が、呼ぶまでもなく、兄の駿二は、一階の窓から顏を、見せてわらつてゐたのである。



それから間もなく、ボンボリ電燈のシャンデリアの下の飾り机を中にして、真紅なドレスと背廣服とがむかひあつて、アームチェアに腰を卸してゐた。

傍らには、夕飯に取つた紅茶の容器があきが行儀よく重ねられてゐて、其上には、果物のつかひ殘りが二人分皿へて置いてある。

「ぢや、中野と節子さんとは戀仲になつてるつて云ふのかい？」

から云つたのは、駿二の思ひ懸けない聲であつた。

「さうよ。あたしの探りを入れたところでは、既に婚約のやうに、ふたりで話つてるらしいわ」

由紀子は、落着きはらつた態度でから云つた、兄駿の樣子は、先妹の、顏面の時から見ると正反對である。

妹の由紀子は、あくまで兄を壓迫し、何となく押へつけてゐるやうな誇らしい態度を示してゐる。

それとは反對に、駿二は何となくうつむき加減で、何かに狼狽したやうに部屋へ込んでゐるのである。

と、急に、元氣のいゝ由紀子の聲が、兄をびつくりさせるやうに言つた。

「兄さん！ かくしてないで白狀してしまひなさい。外務で、散々惡いことをしてきたにも似合ず、隨分、臆病よ……」

「な、何を白狀するんだい？」

と、駿二は、妹の顏を見るのがまぶしいやうな樣子をして、から言つた。

「あら、何をツて？ 駄目よ！ 呆けてちやあ、あたし、すつかり知つてるわ。兄さん案外だつて、その節子さんて人を戀してるんでせう？ さうよ、さうよ！ あたしよく知つてるわ。ねえ、兄さん、兄さんがほんとに打明けてくれゝば、あたし兄さんのためにあらゆる助力をしてもいゝわ。中野さんの手から、其節子つて人をきつと奪ひ取つて上げるわ」

「ね、どう？」

駿二は、から云つてゐる妹の顏を、暫らく見詰めてゐたが

「それ、ほんとうかい？」

と、うめくやうに云つた。

「あら、兄さんは、あたしをそんなに疑つてゐるの！ ちや、いゝわ」

「いや、疑つてなんかゐないよ。だけど」

「だけど、どうしたつて云ふのよ」

すべてが、兄よりも積極的である。いつもの駿二だつたら、妹に對して、こんなに、弱い男ではないのだが、相手が[illegible]となると、さすがに人間のかはつたほどに、なつてしまふのである。

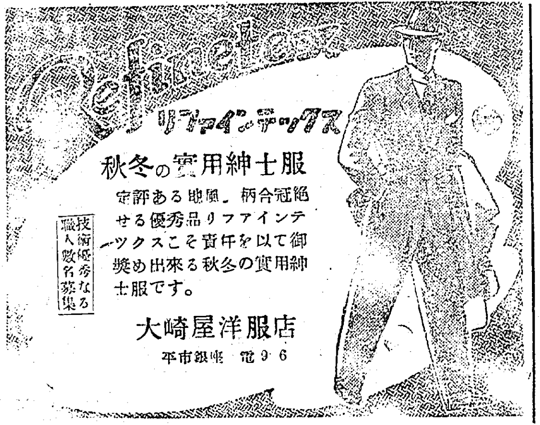
秋から冬物は
是非！
當店から
（在庫豐富）
玉屋洋品店
平田町通電話六五六番

病室增築、手術室完備
產科婦人科
醫學博士 五十嵐雄二
平市新川町 電話三六九番

◇食慾の秋！
フクジケンの
一口カツを
召し上がれ
電話二八番
平市田町
（出前迅速）

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六（電話一七〇番）

▽是非！
御融通には御用命下さい萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般
三井質店
平・四 電話六〇六番



リファインテックス
秋冬の實用紳士服
定評ある地風、柄合冠絶せる優秀品リファインテックスこそ責任を以て御奨め出來る秋冬の實用紳士服です。
技術優秀なる職人數名募集
大崎屋洋服店
平市銀座 電96

花柳病科外科
木村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

◎女車掌
（三名至急募集）
1、未經驗者ニ限ル
2、委細面談
3、優遇ス
平市二丁目
三井タクシー
電六八五番

吉田眼科醫院
平市紺屋町
電話八六番

お醬油はヤマフル
醬油 味噌
たひら正宗
鰹節 食料品
福島縣平市
釀造元 鹽屋
電話一〇・二七番
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

これは便利！
▽手を荒らさず
▽絹、毛織物、木綿、スフ生地を傷めず
▽つけておくだけで洗へるおちのよい
（美）マルミ粉末石鹸
製造元 平市材木町十一番地 電話（呼）四〇八番

おそば!!!は
電話四番やぶそばへ
天ぷらそば おかめ 玉子とぢ
月見 南ばん 五目
親子南ばん 釜揚げ あんかけ
其他各種御座います。
何卒御試食の程御願申上げます。
平市田町

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士 鈴木正男
平市田町（藤田女學校前）
電話五八番

メガネ專門の店
メガネは絶對信用ある當店に先づ御相談下さい…………
玉屋
平市本町二町目

齒科口腔外科
レントゲン科
院長 東京齒科醫學士 原 精一
電話三一番
平市土橋通
原齒科醫院